

社会実験の概要

期間：平成25年11月14日～平成26年3月25日

内容：

1. マルチモーダル情報

パソコン・ケータイ・スマートフォンの様々なツールを活用し、道路情報のほかに公共交通情報等（電車・バス等）を提供し、マルチモーダル情報の必要性・有効性を検証する。また、市民が大雪時等の移動に必要としている情報を検証する。

2. ビックデータ

ビックデータの解析情報（プローブ交通情報・通行実績・ABS作動地点マップ）を除雪作業補助情報として公共機関に試験的に提供し必要性・可能性を検証する。

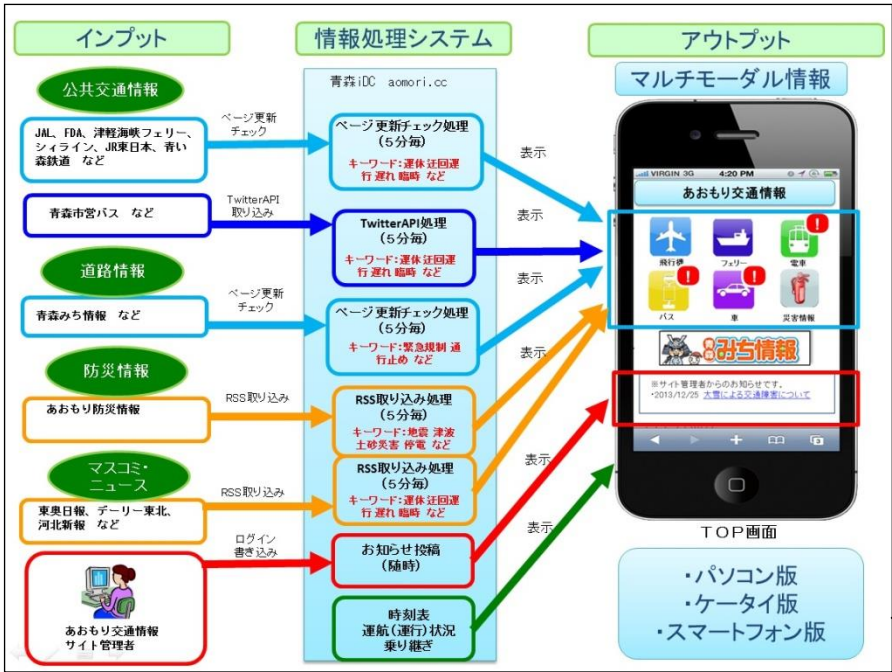


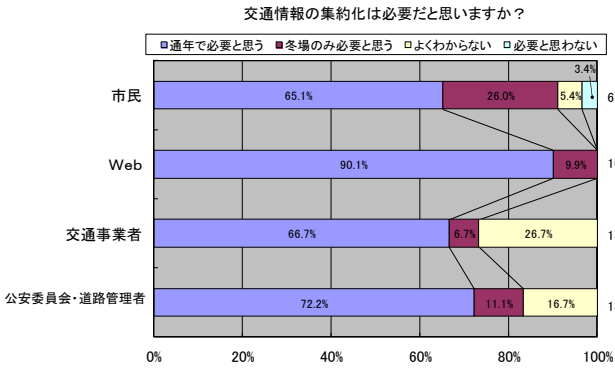
図 プローブ交通情報提供イメージ

← 図 情報の収集と提供イメージ

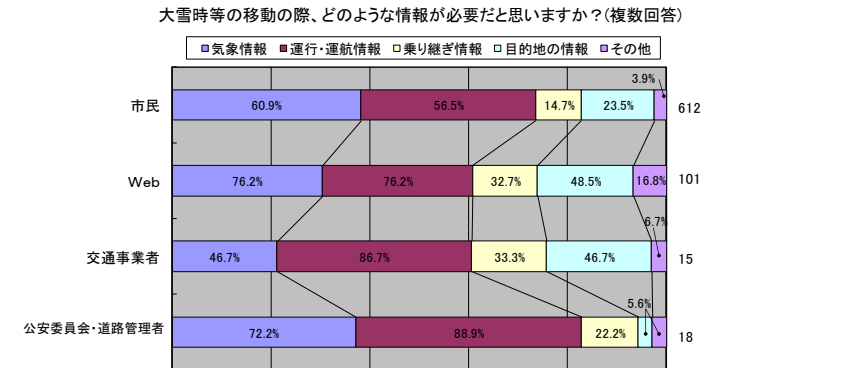
実験結果

1. マルチモーダル情報

「通年で必要と思う」および「冬場のみ必要と思う」では、市民が91%、Webは100%、交通事業者は74%、公安委員会・道路管理者は83%となり、集約化に対する高い必要性が伺える。

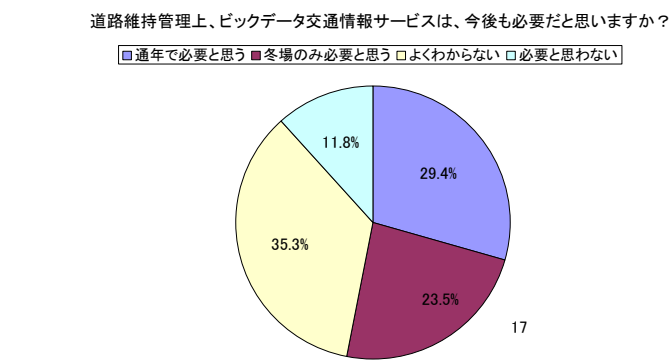


いずれのアンケート回答主体も「運行情報」・「気象情報」を求めている。特に、「運行・運航情報」を一部、配信する日常業務と関わっている交通事業者や公安委員会・道路管理者の場合では、87%、89%と高い割合になっている。

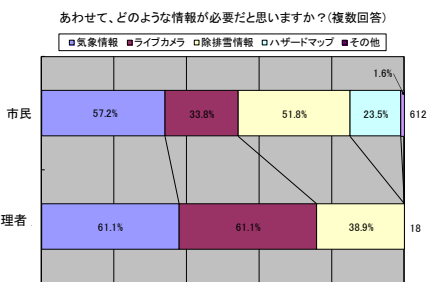
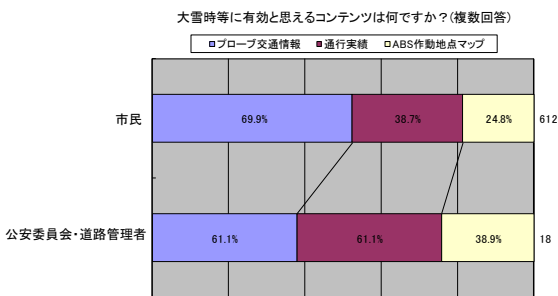


2. ビッグデータ

冬期に特徴的となる活用事例は多く見られなかったが、アンケート結果等から今後の活用が期待できる。



既存情報の他、「プローブ交通情報」「通行実績」に「ライブカメラ」等が併用され、他の管理者データとも連携することで、大雪時や災害時等に有効なコンテンツとなる可能性がある。



本格実施に向けた課題

- 1. マルチモーダル:リーフレットやメディアを活用した広報の強化、地元交通事業者への支援による一次情報の充実、サービス・機能の充実、費用負担
- 2. ビッグデータ:プローブ量の増大、カメラ情報による補完、サービス・機能の充実、費用負担